



みなさまこんにちは！秋を感じる9月となりました。8月のお盆はだいぶ涼くなってしまい、猛暑を忘れてしまうほどでしたがそのまま秋にはならないのですね。暑さは戻りましたが、空を見るとやはり秋だな～と感じますね。

さて、先日お客様から一冊の本をお借りしました。「日本の七十二候を楽しむー旧暦のある暮らしー」という本です。季節には、太陽暦の1年を4等分した春夏秋冬の他に、24等分した二十四節気と、72等分した七十二候という細やかな季節の移ろいが取り入れられています。二十四節気は立春から始まり、春分、夏至、秋分、冬至の4つの時期をさらに6つに区切り、大寒で締めくくられ1年となります。七十二候は、二十四節気をさらにおよそ5日ずつの3つに分けます。季節それぞれのできごとや気象の動き、動植物の変化を知らせる短文になっているのが七十二候です。例えば、新暦の8月28日～9月1日ごろは「天地始めて肅し(てんちはじめてさむし)」といい、ようやく暑さが収まりはじめ、夏の気が落ち着き、万物があらたまる時期とされています。また、秋分の頃(9月22日～27日ごろ)は「雷乃声を収む(かみなりすなわちこえをおさむ)」といって、夕立に伴う雷が鳴らなくなり、入道雲から翳雲へ秋の空が晴れ渡る頃です。花や鳥や草木や自然現象にまなざしをむける七十二候は日本的で情緒ある暦ということを知って、大変興味が湧きました。その季節ならではの暮らしや事柄を感じながら毎日の暮らしを豊かにしていきたいと思いました。着物の着こなしのヒントもたくさん詰まっている七十二候。地球温暖化で季節に変化があっても、大切にしていきたい暦です。

＜ たかはしきもの工房 1DAY社内研修 ＞

宮城県気仙沼市にある「たかはしきもの工房」の高橋和江さんを講師に迎え、スタッフ一同1DAY社内研修を行いました。

きもの好きな方なら、雑誌などでご存知かと思いますが、宮城県気仙沼市にある「たかはしきもの工房」の代表・高橋和江さんを講師に迎え、原町本店で丸っと1日研修会をしました。研修の目的は、「たかはしきもの工房」の商品を良く知ることと、補正や肌着でお客様に簡単に楽に着物を着ていただきたいという思いからです。以前から、個人的に愛用していた「たかはしきもの工房」の肌着やアイテムをお客様にぜひおすすめしたい！でも中途半端な知識でおススメはできない！ということで一日かけてみっちり学びました。



「きもの未来塾」で和江さんからたくさんの事を学びました。それ以来、勝手に私の師匠と慕っております。



前半は、集中的に座学をおこない、商品開発の経緯や、商品について、補正の必要性などを学びました。着物を着ることを難しく考えないこと、しきたりに囚われすぎないことなど、目からうろこの話にスタッフ一同、黙々と耳を傾けていました。

後半は、それぞれの体形に合った補正肌着を選んで頂き、実際に試着しました。



これまでと全く違う着物体型？に変化したスタッフたちに、驚きとため息ばかりでした。私は普段、面倒くさいので補正は全くしません。しかし、和江さんを選んで頂いた補正肌着は驚くほど簡単で、補正した方がスッキリと痩せて見える(ここが大事)のです！また、夏の暑い季節にさらに涼しく着るための工夫や、肌に優しい工夫がたくさん！！これは、もう一日でも早くお客様にお伝えしたい！！ということで、いわき店は9月、原町本店は11月フィッティング会を開催します！アドバイザーの来店日もあります！ぜひ楽しみにしててください！！

原町本店は
11月開催！

いわき店 「秋の着物生活応援フェア」

9月22日(水)～9月25日(土)

「たかはしきもの工房」の商品が手に取れる、フィッティング会を同時開催します！

24日、25日はアドバイザー来店です

※高橋和江さんの来店はありません

※23日(祝)は休まず営業いたします

< よろづ屋 きものがたり～江戸小紋～ >

全国の紬や染めの産地のお話や、きものまつわるあれこれをご紹介しますコーナー
第9回目は、着物の万能選手江戸小紋

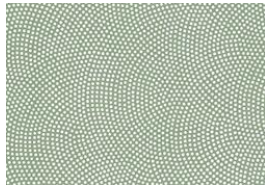
今回は、武士の袴を起源に持つ江戸小紋についてです。江戸小紋は、色使いが控えめで渋さや粋が持ち味で、細かい繰り返し模様の単色染めです。長い張り板と型紙を用いる染色方法は長板中型と同じですが、片面だけを糊で防染し、色を入れた染料糊で「しごき」という技法で地色を染めます。

江戸小紋に使う型紙は美濃和紙を三枚重ねて柿洪で張り合わせ、錐(きり)などで精緻(せいち)な模様を彫ったもので、伊勢(現在の三重県鈴鹿市白子・江島・寺塚地区)で製作されることから「伊勢型(型紙)」と呼ばれています。およそ3.4cmに何百ものある細かい粒の柄を少しもずらさず、型紙のつなぎ目が出ないように染めるのは至難の業で、型を彫る職人と染めの職人の双方の技術があればこそです。

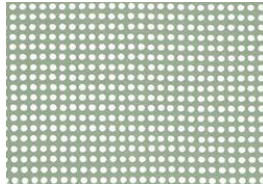
数千種類もあるといわれる型紙の模様の中で、袴に用いられた柄は武家ごとに定められていたので「留柄(とめがら)」といい、代表的な「鮫」「行儀」「角通し」を「江戸小紋三役」といいます。江戸時代にはたびたび贅沢禁止令が出され、江戸小紋の豪華な柄も取り締まりの対象となっていました。そこで考えられたのが、遠めに見れば無地に見えるほど細かい模様にする事でした。身分が高い武士ほど細かい柄の着物を纏ったため、結果として高度な染色技術が発達し、より繊細で精密なデザインの江戸小紋が生み出されることになりました。



フォーマルもカジュアルも帯次第で楽しめる万能選手



鮫
鮫の皮のような半円形を重ねた模様。この鮫小紋は小紋の中でも最も古い模様のひとつで、肩衣や袴の模様として使われた。



通し
柄の縦横が直角に交差し等間隔に並べられた点模様。「筋を通す」という意味がある。



行儀
点の並びが斜めに交差してある模様。お辞儀をする時、斜めに体を曲げることに由来した柄。規則的に毅然と並んでいることから、行儀作法、「礼を尽くす」という意味がある。

体型別、着付けのコツ

ふくよかさんのつぽさんおやせさん

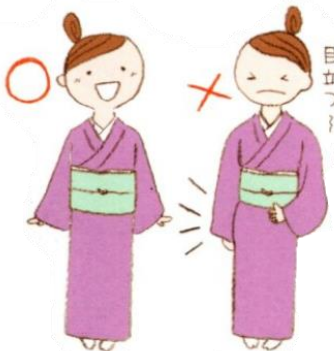
着物には、体形の悩みをカバーしてくれるさまざまな知恵が詰まっています。ふくよかでもやせていても、ほんの少しの工夫で美しい着姿になります。

～下腹が出ているのが目立ちます～
「少し帯幅を広げてカバーします」

下腹が気になるからと言って、帯位置を下げてしまうと老けた印象になってしまいます。帯幅を調整できるような開き仕立ての名古屋帯や袋帯などで、幅を広くして帯の下線が腰骨を通るようにするとお腹のふくらみが目立ちません。また、補

整でスッキリさせるコツもあります。タオルなどで腰回りの凹みを埋めた後、裾除けのさらし部分の広い面を使って、補整のタオルを体と一体化させるように巻きます。お尻や下腹のお肉を押しつぶすように力を入れて巻くと、押しされたお肉が上に移動します。腰回りがなだらかな筒状になれば、下腹もスッキリ目立たなくなります。

参考文献: 着物の辞典 大久保信子監修
十人十色の補正術 別冊七緒



今月のおすすめ!

たかはしきもの工房
たびすけ
638円(税込)

今回おすすめの商品は、たかはしきもの工房オリジナルの足袋洗い専用スポンジ「たびすけ」です。着物に欠かせない足袋ですが、一日履いただけでも予想外に底が汚れて黒くなっていることはありませんか? 足袋裏の汚れは主に泥やホコリなどの不溶性の汚れです。洗濯機などでは落ちにくく、手でかき落とす必要があります。その汚れを、チカラで落とすのではなく、カタチでかき落とすのが、この足袋洗い用スポンジ「たびすけ」です。「たびすけ」に使用されている繊維は、一本一本が三角形のような特殊な形をしています。その特殊形状によって、繊維一本一本の角や側面が汚れをかき落としてくれます。この「チカラ」ではなく、「カタチ」で落とす構造によって、軽い汚れは洗剤無しでも落ちますが、足袋底の汚れはとて頑固なので、固形石鹼をしっかりとつけてください。(ウタマロ石鹼がおすすめ) 「たびすけ」の先に力を入れず、横にスライドするように優しく洗ってください。ゴシゴシ洗う必要がないので、足袋が傷むことなく長持ちします。

・・・若女将のつぶやき・・・

原町本店の店外催事「秋の総力祭」を、南相馬市民文化会館「ゆめはっと」で9月9日～9月11日に開催いたします! さて、「ゆめはっと」といえば、私の個人的な趣味? というか、ホームグラウンドのような場所です。実は、ボランティア活動として「ゆめはっと」の舞台サポーターというものをやっております。具体的にいうと、ゆめはっとで開催されるコンサートやイベントの舞台照明や舞台設営などのお手伝いをボランティアでしております。先日自衛隊東北方面音楽隊のサマーコンサートのピンスポットのお手伝いをしてきました!! 写真では良くわからないかも知れませんが(笑)

※ちなみに原町本店スタッフの新妻さんも、一緒に舞台サポーターの活動してます!

